



▲2010年11月14日に行なわれた内閣府主催の地域フォーラム。参加者があふれていました。

保護から権利へ―障害当事者の意見を基に

「障害者制度改革に関わる埼玉集会」

二〇一〇年十一月十四日・二十六日

十四日は、内閣府と埼玉実行委員会主催による

「障害者制度改革について考える地域フォーラムINさいたま」が障害者交流センターで、二十六日は「埼玉県民集会実行委員会が主催した」どこでも安心して暮らせる埼玉に「すすめよう障害者制度改革を」テーマにした集会在さいたま市文化センターで開催されました。

この二つの集会とも「障がい者制度改革推進会議」でまとめた第二次意見を学び、多くの人に伝えていくこと。併せて障害者や家族、関係者の声を国や県に届けることを目的に障害者団体が手をつなぎ開催したものです。

今回の「障害者基本法」の改正については、障害者の権利や定義、差別禁止の問題など多くの課題が山積みしています。

障害者が地域で暮らすには当事者の想いを大切に継続した支援が必要であり、支援を受けながら暮らすことが「保護」ではなく「権利」として保障される必要があります。この後に続く「総合福祉法（仮称）」「障害者差別禁止法」など多くの法律や条例にも影響します。

障害者の暮らしが、その時々の政治や財政により左右されて良いはずはありません。各法律の中にある「可能な限り」などでは現在と変わりません。障害者権利条約の理念を今回の改正にどう生かすかが今問われています。

障害の種別を超え共通した願いを大切にした運動をどの様に築いて行くのか、問われているのではないのでしょうか。

NPO法人埼玉障害者センター

理事長 新井 真一



▲施設利用者のうたごえの中で（県民集会）

これから私たちがすべきこと 第13・14回障害者自立支援法学習フォーラム

参加者の意識共有へ

さいたま市精神障害者家族会連絡会

佐復 恵治

平成二十二年十二月九日(木) 県障害者交流センターのホールで大勢の参加者を得て開催されました。

テーマは「これから私たちがすべきこと」とし、情報報告、レポート報告、全体討論のプログラムで進められました。

一、「障がい者制度改革」をとりまく動向

報告者 斎藤なを子さん

(さいたま市障がい者施設連絡会事務局長)

「今、私たちがめざしていること」

・ 障害者権利条約を、日本の憲法と法律の間に位置づける

・ そのために、現在の法律や制度を権利条約に合うように変える

・ 障害者自立支援法違憲訴訟基本合意文書をベースに新たに福祉法制度をつくるを掲げて、障害者自立支援法の改正をめぐる十一月以降の主な経過や改正法案の背景が報告されました。更に介護保険の見直し、推進会議・差別禁止部会・総合福祉部会をめぐる動きなどの説明がありました。

最後にこうして学習や運動が益々大切になると訴えられました。

二、さいたま市「障害者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例(仮称)要綱案

説明者 増田二世さん(やどかりの里)

一〇〇人委員会で議論を重ねてきた本条例を市長へ最終報告案として提出する最終段階になってきており、本市の障害者施策が飛躍的に前進するのかが大事な時期を迎えているとの報告がされた後、最終報告案の内容と障害者権利条約の視点、市の実態とを照らし合わせて説明がありました。

三、全体討論

参加者から多くの質問・意見がだされました。障害者権利条約、市の「ノーマライゼーション条例」を私たちの日々の暮らしから、何を考え、どう行動していくのか、参加者の意識を共有できたフォーラムとなりました。

学習フォーラムで

学ぶことの大切さ

めざす会 中村 和子

先ず「障害者制度改革」を取り巻く動向として、施設連絡会事務局長斎藤なを子さんの報告がありました。

今私たちが目指していることは、障害者権利条約のしっかりした受皿となる総

合福祉法や差別禁止法が制定されることですが、その大元となる障害者基本法を権利の保障という観点から抜本的に改正する必要があります。内閣府下の制度改革推進会議で定められた第二次意見を基にした改正案が閣議決定されれば今通常国会に上程されることになっているが、この二次意見に対する関係省庁の抵抗が激しく大きく後退する恐れありとのこと。

推進会議の問題意識と関係省庁の見解、第二次意見の確定版との対比表が示され

解り易く説明されました。

さいたま市のノーマライゼーション条例も二年がかりで百人委員会やタウンミーティングを重ね障害者施設推進協議会で定められた条例案の最終報告が市長に提出されました。

二月二日から開かれる市議会でも可決されれば政令指定都市では初めての障害者のための条例となるそう。他市からも注目されているそうです。

しかし議会の雲行きが怪しいとのこと、皆で全議員に働きかけをとの提案があり、後日私達もはがき作戦を実行しました。

そして三月二日保健福祉委員会、四日本会議と多数の傍聴者が詰めかける中、全員起立で「誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」という長い名前になった条例は原案通り可決成立したのです。

しかし、私達のすることはまだこれからです。学習フォーラムでいつも言われている障害の違いを超えた横のつながりを確かなものにと、自分たちを取り巻く情勢をしっかり学んでぶれない運動の継続をしていくことの大切さを実感すると共にもっと多くの人に参加して学んでほしいと思えました。

知らないといけないことになりかねません。



▲第14回学習フォーラムで熱心に学習するみなさん



▲丸木美術館一原爆の図の説明を受けて。

見学会

**大規模施設「嵐山郷」
「丸木美術館」**

自然豊かな環境とは、とりも直さず現実社会とはかけはなれた存在であること、のギモンも感じながら…

年も押し詰まった十二月十四日、埼玉県が設置し埼玉県社会福祉事業団が管理運営する「嵐山郷」と、原爆の絵で有名な「丸木美術館」を訪ねるバス研修会を実施しました。

嵐山郷は、障害者自立支援法に規定する障害者支援施設、児童福祉法に規

▲参加者のみなさん



定する知的障害児施設、及び重症心身障害児施設、また医療法に規定する病院の複合施設があり、知的障害者及び身体障害者の福祉の増進を図ることを目的とした、大規模な施設でした。

施設の概要を聞いた後で、広大な敷地に点在する施設をいくつか案内していただきながら、さいたま市内にある小規模作業所との落差を思っていました。

障害者が何種類かの手仕事にせつせと勤しむ様子を見たり、ケアホームの近くで仲間と楽しそうに会話をしながら散歩をしている姿に出会いましたが、のびのびと生活していることが感じられました。

重度の方の住まいは遠くから眺めるだけでしたが、給食棟やクリーニング棟、そこから延びる大きな地下通路に立った時に、各施設にぬれずに通じることや、片時もじつとしていられない自閉症児者）には、雨の日の格好の運動スペースになることを知って感心させられました。

その後訪れた織物や陶器作りのための工房では、気に入ったものを購入する人も見られました。

自然豊かな環境には、羨ましいと同時に、あまりにも現実社会とは隔離されていることへの疑問も感じました。

東松山市にある丸木美術館は、水墨画家であった丸木位里氏と洋画家であった丸木俊氏夫妻によって建てられた美術館で、夫妻の体験を元に30年を要して描かれた『原爆の図』は、第二次世界大戦で使用された原子爆弾の惨状を描いたものです。世界各地でも巡回展示されていますが、『南京大虐殺の図』『アウシュビッツの図』などが書き加えられて、戦争や公害問題を題材にした作品を通して社会に強く訴え続けています。

世界唯一の被爆国である日本から、戦争、特に原爆の恐ろしさを訴え続けることの重要性を再認識してきました。

位里さんの母親である丸木スマさんの絵画も常設展示されていますが、その素朴な絵からは、ほのほのとした気持ちが湧いてくるようでした。

嵐山という少々遠い施設をゆつくり見

学するために、少々遠回りの高速道路を利用して、時間を有効に使えました。また今回は、大勢で利用できる昼食会場を探すのに大変苦労しましたが、参加された皆様がおいしそうにいただきながらそれぞれに交流を深めていらつしやる様子を見て、企画から実施までの苦労が消えて行きました。

どう企画するか毎年悩みますが、懲りずに来年も頑張りたいと思います。

飯塚 壽美

三国コカ・コーラグループ 自動販売機総合オペレーター

三国フーズ株式会社

MIKUNI FOODS

私たちは『飲・食』のサービスを通じ、すべての人々へ『うるおい』を提供します。

〈本社〉〒363-8601
埼玉県桶川市大字加納180番地
TEL 0120-568-392

JAB ISO 14001 JACO UKAS

あうんの呼吸・インタビュー 私の人生とウィーズとバレーボール 竹内 政治さん

竹内さんはさいたま市障害者協議会

の副会長で、精神障害当事者です。そして、私とはインターネットのブログ仲間でもあり、お互いにほめたりけなしたり、三十歳以上の年の差を超えて友達づきあいをしています。

インタビュー 浅輪田鶴子

—竹内さん、お年は幾つでしたっけ

四十三歳です。発病は十九歳ですから、二十四年ですね。入院していたのは合わせて二年間くらい。閉鎖病棟にもいましたよ。入退院を四回繰り返していましたね。

—十九歳の時、何していたの

義理の父の会社で、働いていたんですけど、まあ、いろいろ人間関係でストレスがあつて、眠れなくなつて、寝不足とか。もともと母方に精神病の人がいて、その素因はあつたんですね。今でこそこんなにしていますけど、発病してからはしばらくは、大変な時期がありましたね。

—よくなつたつて言うのは、何がよかつたんでしょうね

まず、薬が合ったのがよかつたんでしょうね。もうひとつ、人間関係に恵まれたつ

て言うことでしょうかね。

お医者さんに始まつてね、家族、母はもちろん、うちの妻とかね。



▲竹内政治さんとインタビュアー浅輪田鶴子

うちの妻は普通の人で、何の知識もなかったけど、僕と付き合うようになって、精神の作業所の職員になって十二年になるんだけど、理解ができてきましたね。

—奥さんと知り合ったのは?

奥さんはレストランのウェイトレスで、僕はそこの常連だったんですよ。付き合うようになってから、最初は病

気のことと言わなかったんです。

ほんとのことを言わない男女交際っていうのはよくないから、やっぱり本当のことを言つて、理解ができて、僕の方にも病気を公表してもいいんだつて言う覚悟ができて……。

—きつこと言うようだけど、もし再発したら、奥さんに負荷がかかることもあるでしょ。そのことは考えなかつた?

そうですね。一度薬が合わなくて戻りかけたことがありましたけど、そのころは専門知識がありましたから乗り越えましたね。あの時、彼女が全く知識がなかつたら、夫婦関係は終わっていましたね。今いっしょにいて、とても安心していられるんですよ。その代わり、厳しいですけどね。

—奥さんの家族からの反対は無かつたの?

結局だまして結婚しましたからね。でも、去年毎日新聞に載つちやつて、結構大きく載りましたからね。一応家族からメールが来て、説明には行つたんだけど、まあ、お前が幸せならつて言うことになつて、障害による反対つて言うのは無かつたですね。

結婚するときに開示していたら、反対はあつたかもしれませぬね。

今やつと、僕はグループホームの世話人になつてますけど、最初の五年間くらいは妻はがんばつて、世帯分離を考えるぎりぎりのところまで、よく支えてくれました

たね。うちの奥さんは偉いですね。

—そうですね。敬称付けて呼んでるでしょう。妻様ですもんね

そう、妻様ですよ。うちの奥さんも、頑張つてるところ認めてもらいたいというのが原動力になつてるんですね。

配偶者の理解つて言うのは大切ですよ。—ウィーズつて言うのは誰が立ち上げたの?

僕ですよ。僕はそのころもくせいの作業所に行つてたんですけど、なんかメンバーさんの主体性がないなと感じて。何でも親にしてもらつてるようで、親には逆らえないとか。ぜんぜん問題意識もなしね。

じゃあ自助グループを作ろうかつていうことになつてね、うちのかみさんなんかの協力も得てね。

五年ですよ、立ち上げてからね。

—立ち上げて、なんか、変わった?

まずね、生活が変わりましたよ、自分の中でね。

あと、やっぱりいろんな人が関わるようになって、視野が広がつたつて言うことでもありますね。

仲間つて言う言葉、あんまり好きじゃないんですけど、世の中すてたもんじゃないなあとか、ありましたね。

三十五歳まではずつと病気を隠してトラックの運転手とかタクシの運転手とかしてたもんで、病気を開示することつて、肩の力が抜けて生きやすいなだつて

思いましたね。

—でも、どうやって人を集めたの？

パソコンでチラシ作って、区役所とか作業所とかに撒いたんですよ。三百枚くらい作ったかな。

そのあと、とりあえず集まろうって言うて、最初十九人集まったんですよ。

それで名前をウイーズって決めて、簡単な会則決めて、月一回開こうっていうことになって。それから運営委員会作って、やる気のある人が集まって。北浦和の常盤公民館の和室だったな。

やっぱ、なんか立ち上げる時のエネルギーってすごいですね。

その時いっしょに立ち上げた人は、再発してしまっただけで、当事者が第一線でやるっていうのは、難しいですね。

—誤解を恐れずに言いますが、あなたの場合、性格的ないかげんさが生かされてるんじゃない？

でも、私だって批判されると凹みますよ。よく嫁さんに、あんたそんなことになに凹んでるのよって言われますよ。ワハハハ。私はほめられて伸びるタイプだっただけなのに。

—ほんとに奥さんがいてよかったなあって思いますね

バレー部を作ったのはいつごろ？

ウイーズを作った二年目のころですから四年目ですね。ともかく、まず、体を動かそうと思っただけで、精神障害ってメタボが多いんですよ、僕も含めて。体を動かすの

て忘れてるんですよ、病気になるまで。

それでね、うちのかみさんの作業所のバレー大会に僕、助っ人で行ったんですよ。その時すごく楽しかったんですよ。ソフトバレーって、球が柔らかくてね。

—竹内さんくらいタツパがあつたら、楽しいでしょう

そうそう、それでね、勝ったんですよ。準優勝とかね。

勝つことっていい。楽しみながら勝つことができたらいいなと思っただけに言ったら、じゃ、やろうということになって、最初は交流センターのボールを借りたり、監督もいなかったし。

体を動かすことと勝つことを目的として、勝てないんだけど勝とうって言いながらね。

チーム作ったら勝てると思っただけ、そんなわけにはいかない。いやあ、ムリですよ。でもそれが生きがいになってますね。

—いま、メンバーは何人くらい？

選手は十五人くらいと、監督、コーチがいてね、六人制ですよ。

監督はバレーの経験者で、でも相当年食ってるんですけどね。とても面倒見よくやってくれますよ。

学生ボランティアさんが来て楽しんでくれるのもうれしいですね。男性が一人、女性が二人ですけど卒業しちゃうんですよ。だけど、次の人見つけてくれてね。埼玉県立大学の学生です。

さいたま市には三チームあるんですよ。

ソウルフルズっていうチームがあつてそこにはどうしても勝てなかったんですけど、そこが解散しちゃって、今、さいたま市は二チームなんですけど、ウイーズは2連勝なんです。—解散して、来なくなっちゃうって、どういうことなの？



れますから助かります。

—お金はかからないの？

年間千五百円、保険料です。今年から、生活保護の人からは取らないことにしました。他に、部費が五百円。ボール買ったりします。いろいろ助成金とか試みたんですけど、振られちゃいました。

ユニフォーム、ほしいんですよ。Tシャツは作ったんですけどねえ。

—終わったら飲みに行ったりするの？

そこまではやらないけど、交流センターの喫煙室で、みんなの噂話したりするのは楽しみですねえ。練習の時間より早く来てしゃべったり、練習には参加しないけど見に来たりね。そういう意味では社交場になってますね。

まめであることが必要なんですよね。雑用係ですからね、代表なんていうのは。機関紙作ったり、連絡回したりね。

—当たり前だから、誰もほめてはくれないしね

そうなんです。だけど私は自分で自分をほめられるから、いいのかもしれない。自分でほめなきゃやってらんないよって言うところありますから。

病気が悪くなったり、就職したりですね。私はライトでエースですよ。ウハハハ

練習は月に2回やってたんですけど、こっから1回にしました。関東大会前になつたらまた増やしますけど。

学生ボランティアの他にマネージャーが当事者で二人いて、会場を取ったりして



みんなで話そう

団体活動ニュース

**久喜けいわ
ケアホーム見学**
一般社団法人
さいたま市手をつなぐ育成会

二十二年十二月三日、おおぞら号を利用し十八名の参加で見学してきました。久喜けいわは平成二十二年に多機能型施設に移行、現在は、(生活介護・短期入所・施設入所支援・就労移行支援「一般型」・就労継続支援「B型」と、他にワークセンターけいわ・共同生活支援事業として、ケアハウスを六ヶ所・相談支援・障害児等療育支援・障害者就業、生活支援センターの委託を受けるなど、多くの事業を行っております。

私たちはその中のケアホームを主に見学、地域の中に根ざしたホームはぬくもりのある家庭的で理想的なもので、男女を問わず普通に生活していました。

施設長さんのお話の中で、七ヶ所目のホーム建設予定を変更し、今まで与えていただいていたばかりでしたので、今度は地域の皆さんに喜んでいただけるように協力していきたいと考え、地域の皆さんと共に活動出来る場所としての施設を考慮中。そして、ぶれない諦めない、を基本理念



▲池並施設長の元気に圧倒されて…

に利用者を軸に、(関わりを持った以上どこへ行くかと生面倒見るしか仕様がなくてしょう)と明るく語る姿はたくましく、心強い信頼の置ける施設長さんだと痛感させられました。 加藤 シゲヨ

**地域活動や芸能を
通して伝えたいこと**
さいたま市聴覚障害者協会

昔、手話は動物的であると蔑視されてきました。私は聴覚障害者で、コミュニケーション手段は手話です。若い頃、友人のおしゃべりの場は手話を奇異の目で見られるのがイヤで、友人の狭いパートの

部屋でした。

ですが、今、私は聴覚障害を持つ仲間達だけではなく、手話を学んでいる健聴者も一緒に、手話を使ってファミリーレストランなどでおしゃべりを楽しんでいます。このように地域社会が変化していったのは、先輩達のろうあ運動の成果だと思っています。

また、もう一方で、演劇活動など芸能の方向から聴覚障害に対し、理解を求めの人達がいます。先日生活訓練事業で講師としてお招きした砂田アトム氏のような方々です。砂田氏の手話や身体全体を使った感情表現はとても豊かで魅力的です。

ご覧になった方々は、砂田氏が障害者であるということを感じなかったかもしれません。しかし、砂田氏のような方たちの演技には、観客の方たちに楽しんで頂くだけではなく、手話や聴覚障害について正しく理解してほしいというメッセージも含まれているのです。

私たち聴覚障害者は、「障害があってもなくても同じ人間」ということを地域活動や芸能活動を通して、伝え続けていきたいと思っています。 牧野 悦子

**福祉会パソコン
養成講座**
さいたま市身体障害者福祉協会

埼玉県からさいたま市に変わり「福祉会」でパソコン養成講座「ふれあい福祉センター」が始まりますとの事。私はまだ何も解らないまま参加をしましたが、一〇数名の方々が参加をし、私は始めたばかりで夢中で二回目が終わり、年が明けて二回目もやはり難しいばかりでついていきません。勉強会にこれではいけないと思いい、気持ちを入れかえてそれから今まで続けています。

パソコンを使って楽しもうと、会員からの発信に合わせた現在のパソコン教室です。先生にはボランティアでお願いしています。現在一八名の所帯で今後の運営の方向性を模索しながらの日々ですが、最近全員が奮起をして、今後は指導が出来るように、四月からはきちっとしたプログラムを組み、実行を計画中です。

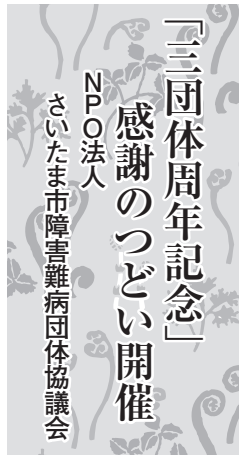
パソコンは体の動かない障害者には取っては便利で、メールで自分の想いを伝える事が出来、絵を楽しみ、また旅行の行程もはつきりとかかめます。 福祉会のパソコン教室の看板を背中に、

胸を張って「教える」目的を持ち、立場をはつきりと認識して、皆さんと心を新たに頑張ってみたいと思っています。

齋藤 雅子



▲教えることを目的にパソコン教室



本会は、平成二十二年一月二十二日（金土）地域複合文化施設「プラザノーズ」内、セミナールーム・ノースギャラリーを会場に、私たち加盟十九団体会員は来賓の皆様方と当時の溢れる思いが蘇る「周年記念の集い」を開催しました。疾病・障害をもつ我が子の療育に悩み就学に戸惑い、いわれのない自責の念で孤独感に苛まれ、決して喝采の無い人生の舞台上で「この世で一番不幸な母と子」

を演じる毎日。

四十数年前、旧大宮市の「教育相談室」を訪れ、母子通園施設「ひまわり学園」に集う知的・肢体等、健気に生きる子どもたちに後押しされるように希望ある将来を築くために「ひまわりの会」を立ち上げ、昭和四十四年四月、設立四十一年の障害時のための連絡会へと繋がっていきました。

更に、平成三年十二月、設立二十年のNPO法人さいたま市障害難病団体協

議会は身体、知的、精神等、疾病、障

害の異なる団体が大同団結しました。そして、福祉・教育・医療・子育て・就労等、取り巻く様々な課題を他団体との連携を深め乍ら、完全参加と平等を軸に活動を展開しております。

心身障害者地域デイケア施設「デイケアかものみや」は、開設十年。これからも地域在宅の障害者が明るく社会参加できる環境提供に努めてまいります。

渡辺 シヅ子

団体紹介

一人の市民としての権利を！

障害者(児)の生活と権利を守るさいたま市民の会

私たちは1986年に「障害者(児)

の生活と権利を守る浦和市民の会」として発足以来、障害者が一人の市民として、同年代の一般市民と同等の市民生活を享受できるようにすることを願い、市の福祉施策の充実を求める要望をもとに活動を続けております。

この間、毎年、次年度予算編成に向けての要望書に基づき担当部局との話し合いを重ねる中で、デイケア施設への家賃補助、市の公共施設の利用料割引やバリアフリー化、市営住宅のバリアフリー化等々、数多くのところで私たちの願いが実現し、障害者への理解が広まりつつあることを大変喜ばしく思っております。

これは私たちが毎年さいたま市へ提出している、要望書の冒頭に述べている自己紹介のくだりです。

会を結成するきっかけとなったのは、埼玉障害者まつりでした。

初期のころの「埼玉障害者まつり」は県立高校や障害児学校などを会場にして県内各地を持ち回りで開催され、その第7回の障害者まつりが熊谷の荒川公園で開催されることになりました。

そこで、県南からは貸し切り列車で参加しようということで、当時の浦和市地域でも、市内の障害者団体などに呼びかけて実行委員会が作られたわけです。

まつりは約1万人の参加で大成功に終わりましたが、その成功のために浦和



▲当日挨拶する清水市長

で頑張ってきた実行委員会を基に「障害者の願いを前に進める運動を続けていきましょう」という呼びかけで結成されたのが「障害者(児)の生活権利を守る浦和市民の会」でした。

ちょうど全国的には、国際障害者年の取組が広まり始めた時期でした。

会では、参加団体や会員から寄せられる様々な要望をお互いに学びあい、当時の浦和市への要望書にまとめ、毎年提出すると共に、市との話し合いを現在まで重ねてきています。

もともと趣旨に賛同される方は近隣他市の方も会員と認めていたことも有り、さいたま市になってからは「さいたま市民の会」と改め、活動を続けています。

現在の課題は、会の存在を旧大宮、旧岩槻の方々に知ってもらい、会員を増やし、会の活性化を図ることです。

さいたま市民の会事務局員・平林

新年交流會
 話し合おうわがまちを楽しくしよう

去る二月二十五日、大宮パレスホテルのレストランで、新年団体交流会が催されましたが、この日は天気が良く暖かく三十二階という高い所からの景色を見ながらの食事は魅力的でありました。

今年で何回目になるのかしら？ここ数年交流会に参加させて頂いております。毎回食事の内容が楽しみで、今日は何が出てくるのだろうと期待しながら、いつもより少々おしゃべりもして出かけて行きました。料理はいつもきれいで美味しいのですが、今年は特に品数も多くボリュームもあって、とっても美味しくて、昼間から少々お酒もいただいて、本当に満腹、満足でした。レストランの方のご好意に感謝いたします。

最初の頃は普段お会いする事もお話しする事もあまりない方が多く、緊張していたのですが、何回か二緒していくうちに、顔も覚えていただき、声もかけてもらって、楽しいひと時を過ごせるようになりました。

そして何より、二時間ちょっとの短い時間の中で、参加された皆様方の色々なお話を聞けた事が、私にとってはとっても参考になった貴重な時間でした。

私は重度の自閉症を持つ子の母親という立場です。ひと口に障がいといっても

様々で、その人の本当の辛さや苦しみを完全に理解することは出来ないかもしれませんが、私でも悩みや愚痴等を聞く事は出来ると思います。また、重度自閉症の子供がいますから、親の気持ちは充分理解してきます。互いに助け合いたいと考えております。一人で悩んだり苦しんだりしないで、たくさんの人と話をすることが大事だとあらためて感じました。



が、いっぱいありますが、自分自身や母親の将来にも不安があります。必殺仕事人の中村主人のセリフじゃないですが「この世の中悪くちや人助けなんかまで手が回らないぜ」なんて事を言わせたくないです。今出来る事をコツコツと私自身はもっと勉強して、人前で堂々と意見が言える人になりたいと思います。

また来年も参加させていただきます。
 障害者(児)の生活と権利を守るさいたま市民の会
 成田 邦子

編集後記

二〇〇六年、国際ダウン症連合は、ダウン症は21番の染色体が通常より一本多い三本あることに由来して、三月二十二日を世界共通の「世界ダウン症の日」と決定しました。この日には世界各地で、ダウン症についての啓発やキャンペーン、イベントが行われています。

いろいろな方達に、知って欲しいという思いは、どの障がい者の方にも共通の思いでしょう。そして、意外と障がいがある人と、障がい者同士でもお互いの事をよく知らないということもあります。それだけに、足下を見つても、時には上を向いて広い視野を持っていたいと、ほんの少し障害者協議会に関わらせていただくようになって感じています。

ダウン症連絡会 佐藤美也子

さいたま市障害者協議会
 会報あ・うん第14号
 発行 さいたま市障害者協議会
 会長 浅輪 田鶴子
 編集 さいたま市障害者協議会広報委員会
 〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-213-1
 大宮ふれあい福祉センター4階
 TEL 048-653-7271
 FAX 048-653-7341
 http://www.saitama-planet.com/
 e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。